



は 21世紀 続くよう 冬場もいいお紅葉の ありて... 事では
いかにしても人は休む間もなく 次から次へ何かを展開して
いくもので。 神の力を頼りながら。 人の優しさを励みに
しながら。 としていい事に 巡り合うのであ。

同級生からの贈り物 「万葉集」 513頁と
—— 大和の古道紀行 —— 隊長 飯島清次郎
甘利・淡路・ケチゴ・長門 順徳 和歌山

今年も 残り少なくなつて参りました。 ことごとく
何か 無事に 過ぎることから 出来 やりやれ という
思いの中 あります。 皆様 お変わりごさ... ませんの
6月に 長男の允(まこと)が 伊那谷に 戻り 父親と 石馬允
厨房に 立つようになり 又々 我々も 活気づいて 楽しく
お客様をお迎えし お送りする毎日です。 松茸や 原田芳雄
さんの 大鹿騒動記で 今更には 盛り上がりを見せた
10月~11月、2月に入つて 静かな元々 石馬允に 来て
冬枯れした庭や 雪を いたいた 赤石 軒下には 下り
た 柿や 天根を 眺め いろいろ 思ったり 感じたり している
ところですよ。

11月 26(日) 27日 の 行程で いつも仲間 6名 (正介含め)に
清次さんの 大学生時代の 親友 甘利ご夫妻と 息子様 を 参加して
下され 今回は 奈良 山辺の道 を 考えました。 1日目は
天理駅に 集合。 土曜日ということで 天理市 ありての イベント
は 天理教の 法被を着た人々が 溢れていました。 膳所地 天理教
の 総本山へ。 スケールの 大きさは 圧倒され 熱心な 信者さんには
目を見張り... 身の周りの 清浄を 重んずる 教では 花嫁修行の
絶好なところもあるそうです。 山辺の道は 紅葉も 今も 盛り
柿やら みかんやら の 道すがら 売らして 売らして 目も
ついつい 行って (もう 我々 一 行。 いくつもの 古蹟 (天皇陵) を
みせて もらいました。 2日目は 談山神社。 美しい 大自然の中は
絶妙な 空間を 保ちながら 立ちまわす 建物の あり様。 この 裏山
多武峯山中の 中大兄皇子と 鎌足公の 蘇我入鹿を 討つ 談合 大化
改新 談合を されたのでした。 「多武峯縁起絵巻」の 生々しい 当時
の ケータイの様子に 尺は 繰り返されること 思いながら
下々の 民の 苦しい 生活を 思いながら 今後の 行程を 歩き。
3時には 仲間と 別れ 伊那谷 3人組は 柿の葉寿司を
沢山 買ひ込み 長谷寺 といかぬは。 谷根 5時。 高深 11時 15分

地蔵峠を 越え 飯田市 上村・南信濃 には
霜月祭りの 12月 1日 梅荷神社 (南信濃 中五地区) を
幕を 開け 力強い 奉納振りが 報道されました。
3日は 上村中郷の 正八幡宮。 4日は 南信濃 熊野神社
で行われ 14日 迄々と どのか 神社で やっている
という 鎌倉時代には 伝えられた 宮廷の 湯立て 神楽で
大龍村では 石馬允の 又々 来たことのない
伝統の 柿餅子 づくりが 始まった そうです。 (中へ)